

2013年12月16日

「よくかわるガスエネルギー業界」感想文

LP元売幹部クラス

先ず、全体的な構成/内容について、

- 生活者、需要家目線でのガスエネルギーの歴史と現状の解説(1章、4章)
- 一次エネルギーとして脚光を浴びている天然ガス(LNG)とLPGそしてシェールガスについての解説(2、3章解説)
- 時代が求めるガス体エネルギー解説(4章、5章、8章)
- エネルギー業界が抱える課題(6章、7章)
- 将来の我が国エネルギーのあり方(8、9章)

現状の仕組み解説/最新のデータ揭示、それらを基にした未来提案とエネルギー業界に身を置いていない読者にも、とても配慮(POINTやコラム)された本に仕上がっていると感じます。

次に、個別エネルギー問題については何と言っても水素エネルギーについての記載です。私どもは垣見専務と度々お会いして、環境にも優しく/我が国の富の流出も防ぐと共に既存のSS、LPガスタンダ業界にも光明を与えるエネルギーと理解しています。

但し、当該業界の方々を含め一般読者にも、改めて水素エネルギーの必要性、重要性について訴求できたものと感じます。

更に、我々LPG業界人にとっては一次エネルギーとしても石油/LPGに備蓄が課せられているのに比較してLNGに備蓄が課されていない事実について一般読者にも広く知っていただけることとなったことは嬉しい限りです。

<日本LPガス協会でも経産省に訴求しておりエネ基本計画で論じられればと思います>

最後に何と言っても将来のエネルギー問題を論じる折の原発問題です。

専務が示しておられるように、核燃利用サイクルと最終処分問題が解決できない原発に基幹エネルギーを任せるのは将来の国の基盤を危うくするものと思料します。

日本独自の革新的なエネルギーシステムを、中長期を見据えて確立すべきと考えます。

以上